

昭和興産タイランド

昭和興産タイランド(水野裕行社長)は、エレクトロニクス、電線、食品分野を中心に好調に推移し、2018年上期の売上高は前年同期比で10%増加した。タイ国内に加え、ベトナムなど周辺国へのマーケティングも強化しASEAN(東南アジア諸国連合)域内の需要を積極的に取り込んでいく。

同社は化学品や合成樹脂、エレクトロニクス関連や食品分野などで幅広い商材を取り扱い、さまざまなマーケットをバランスよくカバーしている。タイ国内の主要工業団地計11カ所に置く営業倉庫を活用して、タイムリーかつ正確な製品供給を行っている。タイへの進出から20年を超える実績を有するが、引き続き「顧客満足度の向上」に向けてきめ細かいサービスの提供を追求していく。

タイ国内販売に軸足を置きつ



水野裕行社長

周辺国マーケティング強化

つ、周辺国へのマーケティングも強化中で、とくにベトナムへの輸出を重点的に進めている。ベトナムは、中国一極集中のリスクを防ぎアジア諸国に生産拠点を分散する「チャイナ・トランスフロン」の受け皿として役割がますます増し、製造業の進出が増えることが予想される。そのため、新たに販売拠点設置を視野に調査を進めている。

昭和興産タイランドでは、タイに拠点を持たない日系メーカーと現地メーカーをマッチングさせるOEM(相手先ブランドによる生産)ビジネスを推進している。なかでも注力している案件が、大日化学工業、フォルモサ・オーガニック・ケミカルとの3社で取り組む金属石けんの委託生産。今年から生産を立ち上げ、タイ国内販売のほか、ベトナム、インドネシアへの輸出も開始した。

インドネシア、上海、広州といった昭和興産の海外拠点ネットワークを有効に生かし、連携のさらなる強化を進めていく。